

## 2023年度 第一回 日産愛知自動車大学校 教育課程編成委員会 会議報告書

1. 開催日時 2023年7月20日(木) 13:30-16:30

2. 開催場所 日産愛知自動車大学校 多目的ルーム

## 3. 出席者

(学校外委員)	企業代表	大森 一也 様	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールスエンジニアリング部
	団体代表	正治 博史 様	愛知県自動車車体整備協同組合 専務理事
	団体代表	西 和幸 様	愛知県自動車整備振興会 教育部 次長
	企業代表	小出 学 様	日産東海テクノ株式会社 工場長
	企業代表	山口 純丙 様	日産プリンス名古屋販売株式会社 課長代理
	企業代表	内山 晃 様	愛知日産自動車株式会社 課長
	企業代表	稲垣 俊夫 様	日産サービスセンタ株式会社 次長
	(学校内委員)	学校長	松川 健一
部長代理		鈴木 貴久	教育部
課長		武内 健二	教育部、学務部
課長代理		中務 健之	教育部 一級科
課長代理		坂口 正憲	全科1,2年生
統括		上谷 晃一	工学科、CM科
統括		今野 雄一	学務部

## 4. 議題

・ご挨拶

1. 前回の意見の受け止め
2. 国家試験結果報告
3. 退学・休学率の低減の取組み
4. FY22卒業生アンケート(販売会社アンケート)の結果報告
5. 23/4入学者実績について
6. 就職実績について
7. 定期点検実習の取組み
8. 自主性・主体性の育成(国内研修での取組み)
9. コロナ5類移行からの現状
10. マスターメカニック科の取組み
11. カーボディマスター科の取組み
  - ・知識向上の取組み
  - ・ルーブリック評価のブラッシュアップ
  - ・東京オートサロンへの出展に向けて
  - ・地域貢献活動

## 5. 議論

- 1) 意見交換と質疑応答 いただいた貴重な意見・指摘については、今後の授業に反映していく。

種別	項目	所属	質問者	主な意見
1	前回の意見の受け止め	説明内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック評価と成績が紐づけられ、相関関係があるのを知りたい。 学校回答:各クラスの成績上位10名を見ると、ルーブリック評価も高いことが見えた。今後は行動評価にも反映し、相関関係を見ていきたい。</li> <li>・不正車検の問題がニュースになったこともあり、法令遵守に関する教育をお願いしたい。 学校回答:4月にJAMCA、夏休み前には国交省からの資料を使い、注意喚起をしている。</li> <li>・貨物の点検と記録簿の記載を取り入れていただきたい。 →「7. 定期点検実習の取組み」のパートで説明。</li> </ul>
2	国家試験結果報告	説明内容		<p>「一級」 21名の受験、筆記試験で3名の不合格、口述試験で1名の不合格。 不合格者の傾向として、正答率の高い問題を多数間違っていた。今年度に反映させる。</p> <p>「二級」 ガンリン、ジーゼルとも131名全員が合格。 留学生の受験対策のため、例年12月から特別勉強会を実施するところ、昨年度は4月から開始した。</p> <p>「車体」 21名全員合格。</p>
3	退学・休学率の低減の取組み	説明内容		<p>昨年度は休学退学率は5.9%、一昨年度より増加。 学生のメンタルヘルスに対応するため、カウンセラーの先生との連携を強化してした。 コロナ禍の影響もあり、留学生の学費の支払いに影響が出た。学費の分納などで対応を行った。</p>
4	FY22卒業生アンケート(販売会社アンケート)の結果報告	説明内容		<p>昨年入社した卒業生と指導されている方に12月にアンケートを実施。日産校5校で307件の回収(回収率74%)。愛知校は一級科9名、二級科75名。</p> <p>「一級科」 整備技術力、日常業務とも全体的に、昨年度より高評価。</p> <p>「二級科(カーボディマスター科、マスターメカニック科含む)」 全体として、昨年度と比較して変化は少ない。 留学生卒業生に対して、厳しい評価が散見された。特に読解力やコミュニケーション力の項目で顕著であった。</p>
		プリンス名古屋	山口 様	<p>店舗からの情報によると、新入社員の一部に部品や工具の名称の理解が不十分の方がいる。 車種が変わると、分からなくなる新入社員もいるとのことであった。 コンサルト(外部診断器)での故障部位特定は、1年目はそこまで求めてはいない。 全部100点でなくても良いが、入社後すぐに必要となる知識は身に付けてきてほしい。</p>
		日産自動車	大森 様	<p>「EPC(※1)での部品検索が弱い」という項目はEPCシステム製作しているメーカー側の課題とも認識している。 一学校に部品検索システムを導入したのが昨年度後半である。それまではFAST(※2)を活用していたがデータが古く実用的ではなかった。 習得期間が短かったため、部品検索を習熟できずに卒業した学生がいるのも事実である。今後は、部品検索の練習時間を確保していく。</p> <p>EPC部品検索やESM(※3)整備要領書などのマニュアル関係についても、利用する方からフィードバックいただけると有難い。</p> <p>※1 EPC=Electric Parts Catalog 日産の部品検索システム ※2 旧日産の部品検索システム ※3 ESM=Electric Service Manual 日産の電子整備要領書</p>
整備振興会	西 様	<p>二種養成施設でも外国人の方の受講が増加している。近年は日本語能力が低い方もいる。学校の状況も伺いたい。 →コミュニケーションが取れても、漢字をはじめとした読み書きが苦手な留学生は増加傾向にある。</p> <p>国家試験においても、設問等の文言を丸暗記してしまい、言葉の意味が分かっていないケースもある。 →多くの留学生が卒業したが、大半の留学生は日本人学生と変わりなく順調に学業を修めた。 一部の留学生も含めた学生は、教員との面談や特別勉強会を重ねることで成績の向上に努めた。 先生方も、留学生の方への教育ノウハウも積みあがってきているので、ICTも更に活用して教育のクオリティを高めていきたい。</p> <p>国家試験にルビを打って欲しいと要望をしている。「整備要領書にルビは打たれていない。そのため国家試験において、そのレベルの読解力があるかを確認する意味でルビを記載していない」と国交省からの見解があった。継続して要望は行っていく。</p>		

5	23/4入学者実績について	説明内容	今年度は103名の方が入学した。 都道府県別の学生数を委員の方々へ説明。傾向としては、近隣県からの入学が大半となった。 課程別では、一級科が31名と昨年より増加。留学生の入学が少なかったため、自動車整備科の学生数が減少した。	
6	就職実績について	説明内容	就職活動の年間スケジュールの説明。先週、就職イベントを実施。10月に就職キックオフを実施予定。採用試験は1月から始まる。 就職対象学生に、日産販売会社の魅力を訴求し、日産入社就職率を高めていく。	
7	定期点検実習の取組み	説明内容	留学生の方は、定期点検において、整備記録簿を含めた漢字の理解に苦労をしている。 貨物車の点検項目や整備記録簿の違いは伝えているが、貨物車の記録簿記入の練習はしていない。今後、取り入れるよう検討していく。 1年次は33時限(1時限80分)の実習授業があり、練習はパートに分けて(エンジンルーム、足回り、下回り、室内)行い、試験も分けて実施。 記録簿の練習は、作業の待ち時間で事例(5パターン)をもとに作成させている。 2年次は24か月点検で実施。パートに分けず通しての練習と試験。 試験では実車に不具合を設定し、記録簿の記入まで行う。 記録簿に関する動画教材、点検作業に関する動画教材を活用している。自宅でも視聴できる。(動画の紹介)	
		プリンス名古屋	山口 様	法令順守に関して教えているのか。 一点検の必要性や、記録簿の記載の重要性について授業でも伝えている。 法令順守に関するレクチャーは授業ではなくホームルームで行っている。 動画の視聴状況(回数)は把握しているのか？ →把握していない。1回目は授業で見せている。実際に生の作業を見せる時はカメラで大きく映しながら教えている。 今回見た動画だと間が長く、見る気が起きなくなる。学生が見やすいように、不要な間を削除するなど、編集して短くするとよいのではないかと。 →編集して改善する。
		愛知日産	内山 様	整備工場の現場からも、整備記録簿が書けないという声を聞く。 貨物と併せて、レンタカーなどの事業用の整備記録簿の記入についても教えて欲しい。 レンタカーは多くの頻度で入庫がある。 同じ車種でも、レンタカーになると事業用になり、整備記録簿が異なるため経験の浅い整備士は苦労している。 学校では整備振興会の記録簿を使用しているが、実際の12か月点検は車載されているメンテナンスノートを使用する。留学生にとっては全く別物と感じている様子がある。また同じ点検でもクルマによってメンテナンスノートの内容が異なる。 完璧にできなくていいので、学校の授業で経験を多くさせて欲しい。入社後に思い出してくれる状況であると助かる。
		日産サービスセンター	稲垣 様	サービスセンターでは足回りの架装で記録簿を書くことはあるが、頻度は少ない。 そのため、新入社員の教育カリキュラムに、整備記録簿の記入方法を設けることはない。
		整備振興会	西 様	整備振興会での講習では、「ばい煙、悪臭のあるガス」あたりの質問が多くある。 レンタカーの記録簿の知識は必要と考える(乗用車は貨物の記録簿、貨物車は事業用の記録簿)。
8	自主性・主体性の育成(国内研修での取組み)	説明内容	一級科3年生の国内研修を昨年度新たに導入。旅行代理店や見学先企業との調整も基本的に学生が行った。 現4年生による報告会も終了し、新3年生が動き出した。 1年生の国内研修が昨年度中止となったため、2年次になってから実施(5月)。 コロナの影響で見学できない施設が多い中、グループ研修では各自で計画～報告を実施。報告資料も非常によくまとまっており、予想以上に自主性が培われたと担当教員は評価している。	
		プリンス名古屋	山口 様	このような資料(報告会資料)を作成することは、就職後の報告資料等の作成にも繋がると感じる。必要に応じて写真やデータを残す意識付けに役立つ。 →国内研修の前で各2時限の時間を取って学生に資料を作成させた。教員が思っている以上にスキルがあった。
9	コロナ5類移行からの現状	説明内容	現在、学生の方のマスク着用は任意としている。学生の半数は着用している。 昼食時の対策も緩和した。(食堂の座席配置もコロナ前に戻し、教室での昼食も解禁した) 職員室等一部のパーテーションは残している。	
		愛知日産	内山 様	ショールームでのお客さま対応時、社員はマスクを付けている。お客さまは任意である。 整備士も工場でのマスク着用は、個人の判断に任せている。
		東海テクノ	小出 様	防塵マスク等は通常通り使用している。今の時期は工場が暑いため、コロナ対策でのマスクはほとんどしていない。
		日産サービスセンター	稲垣 様	5類になるまではマスクの着用はルールとなっていた。現在、工場でのマスクの着用はほとんどない。事務所内は、ほぼ全員が着用している。
10	マスターメカニック科の取組み	説明内容	マスターメカニック科の3年次のカリキュラムを説明。国家二級資格を取得しているため、培ったスキルでレース用車両のフルメンテナンスを実施。 車両の特性を理解するには、教科書や先生の説明では限界があるため、実際に走行させ、オーバーホールさせて経験させている。 各行事を中心に、年間のカリキュラムを説明。	
		愛知日産	内山 様	入社すると、定期点検の作業から取り組むことが多い。そのため、マスターメカニック科の学生にも、リマインドも兼ねて、就職前に点検の実習を入れていただくと助かる。 →今年度から実施できるように検討する。
		日産自動車	大森 様	NBC(ニッサンビジネスカレッジ)でラッピングの講座は無いが、知識として経験させることはいいと思う。
11	カーボディマスター科の取組み	説明内容	カーボディマスター科の3年次における、車体整備に特化したカリキュラムを説明。 前回、電気回路の読み方などをフィードバックいただいた。学科授業で基本的な電気回路について検討中。 ルーブリック評価ではPROGの結果とかけ離れた所があり、親和力の項目に着目して表現を変更した。 東京オートサロン出展に向けての現状を説明。 地域貢献として、お子様向けの内容で地協メーデーに学生とともに参加。地域の方々や接することで、CSIについて学ぶことを目的としている。9月末にも愛知機械(株)の秋祭りに参加予定。	
		東海テクノ	小出 様	地域貢献は学生が企画しているのか。 →今まで続けてきた活動であり、ここ数年はコロナで中止となっていた。学生は希望者のみ。 大人しい学生が多いので、全員参加にして役割分担で自分の立ち位置を明確にするという経験をさせるのもいいのではないかと。 →控えめな学生にも声を掛けて積極性を学ばせていく。
		愛知日産	内山 様	マスターメカニック科での意見と同じで、カーボディマスター科の学生にも、リマインドも兼ねて、就職前に点検の実習を入れていただきたい(整備士として入社する学生もいるため)。 →検討する
		車体整備協同組合	正治 様	特定整備が施行され、今までになかった法規制のある整備ができた。バンパーを外せば整備記録簿を書く必要がある。 また、車体整備に特化した整備記録簿もある。
		整備振興会	西 様	二級2輪の学科試験が10月にある。日産愛知校の3年生以上は受験ができると思う。申請が始まるが受験状況はどうか。 →3年生以上の学生に案内をしている。マスターメカニック科では数名が受験の意思表示がある。 2輪も国家資格という事で、関心のある保護者もいる。
		日産自動車	大森 様	世界的にEV化が進んでおり、車体の構造も変わってきている。一体成型のボデーの車が出てきた。 トヨタがギガキャスト(一体成型のボデー)導入の発表をしていて、海外メーカー(テスラなど)はすでに導入しているが修理技術など今後が想像できない。 テスラなど修理代が莫大と聞く。 NBC(ニッサンビジネスカレッジ)も日産校も、これからは新しい車体構造の講座も必要になると認識しているため、日産自動車とも連携していきたい。